

クルマだってECOできる 「カーボンオフセットパーキング」

施策のポイント

観光地に自動車で来場の観光客よりいただく駐車場利用代金の一部を、CO₂を排出しないで発電する自然エネルギー発電施設に支払い、ドライブ中に排出したCO₂の一部をオフセット（相殺）する仕組みを導入した。

自治体情報

茨城県高萩市

人口 / 31,999人

標準財政規模 / 7,322,266千円

担当課 建設経済部まちづくり観光課

電話番号 直通 0293-23-7316 代表 0293-23-2111 内線 462

実施主体 高萩市・高萩市観光協会

関連ホームページ

事業期間 平成 21 年度から

参考とした施策

関係施策分類

施策の概要

1 取組に至る背景・目的

地球温暖化問題に関心が高まるなか、温暖化防止対策として、企業としてできること、個人としてできること、様々なアクションが繰り返されている。

本市には、自然豊かな渓谷があり、紅葉シーズンには都心から多くの観光客が訪れるようになり、そのほとんどが自家用車で訪れている。近年、エコに関する関心が高まるなか、排気ガスによる自然破壊が懸念されはじめた。日常生活では、自宅などでの省エネ・エコ活動の選択肢は数多くあるが、旅行中やドライブ中などに努力して省エネをしても、排出してしまうCO₂を削減できる方法がないか、関係機関で協議検討した。その結果、新しい取組として多くの観光客で賑う紅葉シーズン中に、駐車場利用代金の一部で自然エネルギーを購入しCO₂を相殺するカーボンオフセットを導入することとした。



2 取り組みの具体的内容

この取組は、自然エネルギー事業や森林保護活動などの活動に投資・貢献することによって、排出したCO₂を打ち消すという、新しいCO₂削減の考え方である。本事業は、紅葉シーズン中に紅葉の名所「花貫渓谷」に自動車で訪れた観光客から、高萩市観光協会が渋滞対策として臨時に設営する駐車場の利用代金、1台あたり環境整備協力金として頂く500円（普通車）の内100円分を、CO₂を排出しないで発電する自然エネルギー発電施設に支払い、ドライブ中に排出したCO₂の一部をオフセット（相殺）する取組である。



3 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

訪れた観光客に「エコ活動」の機会を提供することで、観光客と共に新しい切り口の温暖化防止活動が図れる。また、次世代に美しい自然環境を残すことに貢献できるとともに、市のイメージアップにもつなげることができる。また、自動車の利用制御、公共交通機関の利用促進を図る効果を想定した。

4 現在までの実績・成果

市観光協会が駐車場を利用した観光客から、駐車場利用料金（環境整備協力金）として頂いた一部、1,235,300円（1台あたり100円分）を、自然エネルギー発電に支払い、約39トン（サッカーボール390万個分）のCO₂を削減した。

また、シーズン中に周遊バスを運行し、バスの乗車率を向上する結果につながった。

5 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

観光客に、自然エネルギーを購入してCO₂をオフセット（相殺）の仕組みを理解してもらうため、駐車場内の売店や駐車場利用券にオフセットの説明文を記載するなどの周知を図った。その結果、駐車場を利用した全ての観光客に協力金を頂くことができ、協力金に対してのトラブルはなかった。

6 今後の展開と課題

地球温暖化対策として、CO₂を削減することは、全ての国民がその恩恵を享受していることになる。今回の取組は、都心からの観光客をターゲットに、一つの手段として導入し、大きな成果を残す結果につながった。今後も更に、市民、観光客のエコに対する関心を高めるとともに、豊かな自然環境を次世代に残すため、更なる自然環境保護活動を推進していきたい。



予算関連データ

総額 ①～⑤の計		財源内訳（財源区分：①～⑤）				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
0千円		0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
①～④の名称、 所管など	名称					/
	所管					
	金額					
	補助率					